

		主時制			補助時制		態
		未来時制	現在時制	過去時制	完了時制	進行形	受動態(受け身); 能動態
be動詞の形	1. will be (原型) ← willは助動詞 2. be (主語の活用) going to be	is, am, are	was, were	have(has) been	なし (★4)参照	-	
	平叙文 否定文 疑問文	平)・She is fine. ・I am fine. ・You are fine. ↓否定文はbe動詞の後にnotを入れる。 否)・She is not fine. ・I am not fine. ・You are not fine. ↓疑問文はbe動詞(V)+主語(S)と入替る。 疑)・Is she fine? ・Are you fine?	平)・She was fine. ・I was fine. ・You were fine. ↓否定文はbe動詞の後にnotを入れる。 否)・She was not fine. ・I was not fine. ・You were not fine. ↓疑問文はbe動詞(V)+主語(S)と語順を入替る。 疑)・Was she fine? ・Were you fine?	平)She has been to Canada twice.(彼女はカナダに2回行ったことがある。) ↓否定文はbe動詞の後にnotを入れる。 否1)She has not been to Canada.(彼女はカナダに行ったことがない。) 否2)She has never been to Canada.(彼女はカナダに一度も行ったことがない。) ↓疑問文はbe動詞(V)+主語(S)と入替る。 疑)Has she ever been to Canada?(彼女はカナダに行ったことがあるかな?)			
一般動詞の形	1. will 原型動詞 ← willは助動詞 2. be (主語の活用) going to 原型動詞 補)to不定詞 そんなものと聞いてください。 willを使った場合は、助動詞の構文なので(canと同じ)、必ず動詞は原型に！ 否定はwill not, 疑問文はWill 主語(S)という文頭になる。↓	・原型 (主語が 一人称、二人称、複数) ・三人称単数形 (三単元) 三単現動詞の作り方 ・通常は原形にsを付ける。 like→likes, sing→sings ・s, sh, ch, o, x で終わる語は es を付ける。 catch→catches, pass→passes, go→goes finish→finishes, wish→wishes, fix→fixes ・「子音字+y」で終わる語はyをiに変えてesを付ける。study→studies ・不規則 have→has	過去形 過去形動詞の作り方 ・通常は原形に ed を付ける。 wonder →wondered ・eで終わる語は d だけを付ける。like→liked ・「子音字+y」で終わる語は y を i に変えてed を付ける。study→studied ・「短母音+子音字」の語は子音字を重ねてed を付ける stop→stopped ・不規則はしっかり覚える。	have(has) 動詞の過去分詞形 過去分詞形動詞の作り方 ・原則は過去形と同じ形。 ・不規則あり、要暗記 ・不規則はしっかり覚える。 注 ・この時のhaveやhasは助動詞。「持つ」という動詞では意味が通じません。この助動詞に続く動詞は原型ではなく過去分詞。 ・never, everは完了形で使う副詞と言っても過言ではないでしょう。 everは平叙文と疑問文で使われ、「今までに」と訳せばうまく訳せませす。neverはnotと同じですが、「(今までに)一度も～ない」という強調があります。	be動詞 現在分詞(～ing) ・動詞の原形にそのまま ing <原則> play → playing ・発音しない e で終わる語(黙字)は e を取って+ing make → making use → using leave → leaving ・短母音+子音で終わる語は最後の子音を重ねてからing run → running swim → swimming ・-ie で終わる語は -ying に変わる die → dying, lie → lying, tie → tying	be 動詞の過去分詞形(～)	
	平叙文 否定文 疑問文	・You will study English tomorrow. ・You will not study English tomorrow. ・Will you study English tomorrow? ・You are going to study English tomorrow. ・You are not going to study English tomorrow. ・Are you going to study English tomorrow?	・She likes him. ・She does not like him. ・Does she like him? ・You like me. ・You do not like me. ・Do you like me? 一般動詞の否定文と疑問文に使われるdo/does(主語が三人称単数)は、 否定文と疑問文を作るための助動詞 です。"Do-する"と言う意味の一般動詞ではありません。	・She liked him. ・She did not like him. ・Did she like him? ・You liked me. ・You did not like me. ・Did you like me? 現在形で、一般動詞の否定文と疑問文に使われる 助動詞のdo とdoesが、過去形になるとdidで統一されます。	平)I have climbed Mt. Fuji two times.(私は富士山に2回登ったことがある。) ↓否定文はbe動詞の後にnotを入れる。 否1)I have not climbed Mt. Fuji.(私は富士山に登ったことがない。) 否2)I have never climbed Mt. Fuji.(私は富士山に一度も登ったことがない。) ↓疑問文はbe動詞(V)+主語(S)と入替る。 疑)Have you ever climbed Mt. Fuji? (あなたは今までに富士山に登ったことある?)	平)You are playing the piano.(あなたはピアノを弾いている。) (注)You play the piano.(あなたはピアノを弾く。) 現在形では、習慣的に弾いている人か、今弾いているのが曖昧です。 ↓否定文はbe動詞の後にnotを入れる。 否)You are not playing the piano.(あなたはピアノを弾いていない。) ↓疑問文はbe動詞(V)+主語(S)と入替る。 疑)Are you playing the piano? (あなたはピアノを弾いているのかな?)	平)The picture is taken by him. (その写真は彼によって撮影される。) ↓否定文はbe動詞の後にnotを入れる。 否)The picture is not taken by him. (その写真は彼によっては撮影されない。) ↓疑問文はbe動詞(V)+主語(S)と入替る。 疑)Is the picture taken by him? (その写真は彼によって撮影されるかな?)
説明とポイント	1.単純未来 ・時間が経てば自然にそうなる事を表す。 ・話手の推測を表す。 I will be fifteen years old next year (私は来年15歳になる。) He will be in time for the bus. (彼はそのバスに間に合うでしょう。)	1. 現在の動作・状態 (副詞句を伴うことが多い。) I am hungry. (私はお腹が空いた。) He comes here. (彼が来る。)	1. 過去の動作・状態 (副詞句を伴うことが多い。) He came home about eleven last night. (昨夜、彼は11時に帰宅した。)	1. 結果 「～してしまった。」「～してしまい、今は…だ。」 He have gone to America. (彼はアメリカへ行ってしまった。(ここにいない。)) → He went to America.+ He is not here. と分解できる。	・現在進行形 is (am, are) ~ing ~しているところだ。 Father is walking in the yard. (父は庭を歩いています。) ・過去進行形 I was reading the book about gesture last night . 私は昨夜、ジェスチャーに関する本を読んでいた。	(動作動詞の受動態の訳し方) S+ be動詞+過去分詞(～) by S' 「SはS'によって ~される。」「～する人」はbyで示されるS' 能動態(普通の文)と受動態の書き換え例 Everybody likes her. (みんな彼女が好きです。) She is liked by everybody. (彼女はみんなに好かれている。)	
	2.意志未来 I will do my best. (最善を尽くすつもりです。) I am going to learn English. (私は英語を学ぶつもりです。)	2. 現在の習慣的行為 She goes to church on Sunday. (彼女は日曜日に教会へ行きます。)	2. 過去の習慣的行為 ・副詞句を伴うことが多い。 The airplane flew every Sunday at that time. (その当時、その飛行機は、毎週日曜日に飛んでいた。) ・used to~ I used to do fishing. (私はよく釣りをしたものだ。) ・would often~ He would often come to see me. (彼はよく遊びに来たものだった。)	2. (変化の)完了 「～したところである。」 just already yetがある場合は完了用法 I have just finished my homework. (私はちょうど宿題を終えたところです。)	・進行形にできない動詞 be動詞 ★4、have(持っている)、 継続的状态を表す動詞 belong(属している)、resemble(似ている)、contain(含む) 知覚感情を表す動詞 see, hear, feel, like, love, hate(嫌う) 思考を表す動詞 know, believe(信じる) (注) look, listenはseeやhearの無意志動詞と違い、意図して観ると言う意味があるので、進行形にできる。 haveは食べると言う意味の場合は進行形にできる。	(状態動詞の受動態の訳し方) S+ be動詞+過去分詞(～) 「Sは ~されている」 主語の状態を記述するので、「～する人」を必ずしも示す必要がなく、省略されていることも多い。 The letter is written in English. (その手紙は英語で書かれている。)	
	未来を表す他の表現 ・be about to do(～) ちょうど、～しようとしている。 I am about to go out, but I can't. (私は出かけようと思いますが、できません。) ・be to do(～) ～することになっている。 You are to be honest. ・往來発着を表す動詞と未来の副詞句を伴って未来を表す。 現在形(★1)、進行形(★2)参照	3. 真理・事実(慣用句)を表す。 Two and four are six. (2足す4は6です。)	3. 完了時制の代用 ・never(決して～ない)、ever(今までに)と一緒に使う Did you ever seen a wolf? = Have you ever seen a wolf? (今までの狼を見たことがありますか。) ・after~(～の後に)、before~(～の前に)の節内でのみ。 After I finished reading the book, I returned it to him. その本を読み終えた後で、私はそれを彼に返した。	3. 経験 「～したことがある。」 ever, never, often, once, beforeを伴うことが多い。 I have climbed Mt. Fuji once.(twice). (私は一度(二度)富士山に登ったことがある。) I have never climbed Mt. Fuji. (私は富士山に登ったことが一度もない。) I have been to Hokkaido.(私は北海道に行った事がある。) have been to 「行ったことがある。」熟語と思うべし	現在進行形・過去進行形・未来進行形 進行形も、基本的に時間の幅がある動作の動詞に使われ、完了形と同じで時制を指定するものではない。よって、進行形も時制の指定は主幹時制によります。 また、進行形にできない動詞で、継続的な意味合いがある場合は、完了形の継続用法を、進行形にできる動詞の場合は進行形を使えば良い。 現在進行形 is (am are) ~ing (～している(ところだ。)) 過去進行形 was ~ing (～していた(ところだった。)) 未来進行形 will be ~ing (～している(ところ)だろう。) となります。	実際のところ、普段の会話では圧倒的に能動態が使われています。 それでは受動態は必要ないのかというところというわけではありません。受動態を用いるのにふさわしい場面というのがあります。 どんな場面を受動態を使うべきなのか解説をしていきます。 ①あえて強調したい場合 I was scolded by my mother. 私は母親に怒られました。 ②主語を言いたくない、主語が分からない場合 The window was broken. 窓が割られた。 ③主語を言う必要がない場合 Rice is eaten all over the world. お米は世界中で食べられています。 ④長い主語を避ける場合 ⑤一般的な話をする場合 It is said that young people should study hard. 若者は一生懸命勉強すべきだと言われている。 http://fromexperience.info/grm/segu109.html より引用	
		4.未来を表す。 ・往來発着を表す動詞に未来の副詞句がついた場合 She leaves for Paris tomorrow. (彼女は明日パリに発ちます。)	4.未来を表す。 ・往來発着を表す動詞に未来の副詞句がついた場合 She leaves for Paris tomorrow. (彼女は明日パリに発ちます。)	4. 継続 Father has been in Kyushu for two weeks.(父は九州に二週間います。) have been in 「ずっといる。」熟語と思うべし I have known him since he was a child.(私は彼を子供の時から知っている。) since~(～以来)、for~(～の間)などの副詞句を伴えば、継続用法。 注意点 ・yesterday, last (night year), (three years) agoの様にはっきりと過去の時点を示す副詞句を完了時制で使用できない。 ・疑問副詞whenの文では、完了時制を使用しない。 ・just nowは“たった今”という意味だが、完了時制ではなく過去形で使う副詞句 ・this(morning, year)は幅広い時間を表し、現在まで含めると考えるので完了時制も使える。でも、口語では圧倒的に過去形が使われる様です。 ・過去分詞になる動詞が自動詞(finish, come, goなどが多い)の場合、haveをbe動詞にすることもある。 Spring is come. (春が来た。) The moon is risen. (月が昇った。) ・have gotはhaveの意味(口語のみ) 完了形は文章の表す行為に時間の幅があることを示すだけで、文の基準の時間を表せない。文の基準の時間は主時制(現在、過去、未来)によって表す。基準時制に完了形を併用し、幅を持たせる以下の複合時制がある。 ・現在完了形では、have(has)+動詞の過去分詞形 ・過去完了形では、had +動詞の過去分詞形 ・未来完了形では、will have 動詞の過去分詞形	完了進行形: 高校課程、口語では使用することはまずなく、進行形で十分。 完了形と進行形の合体である完了進行形というものがある。 時制は主幹時制によって決定され、進行形と併用して使われる完了形の用法は継続用法。ます。それにより、以下の三つの形がある。 現在完了進行形 have[has] been ~ing 「ずっと～しているところだ。」sinceやforと併用する場合は現在完了進行形の方が現在進行形より好まれる。しかし、そのようなキーワードがなければ両者のどちらを使うかは使い手の判断。 I have been painting a picture since morning.(私は朝からずっと絵を描いている。) 過去完了進行形 had been ~ing 「ずっと～しているところだった。」 The baby had been crying before the mother came. (その赤ちゃんは、お母さんが来るまで、ずっと泣いていました。) sinceやfor, beforeと併用する場合は現在完了進行形の方が現在進行形より好まれる。 また、発展ではあるが、時制の一致で過去完了進行形は使われるが、それは後日にまわそう。 未来完了進行形 will have been ~ing 「ずっと～しているでしょう。」 It will have been raining a whole week if it does not stop tomorrow. (明日雨がやまなければ、まる一週間降り続いたことになる。 完了進行形は難しいですが、sinceやbefore, forなどの時の起点を表す副詞句がない時は、ただの進行形でも間違えとは言えない。	往來発着を表す動詞の進行形は未来を表す。→come, go, leave, start, arrive, Susan is coming soon.(スーザンはすぐに来ます。)	